



News Letter

神奈川県聴覚障害者福祉センター

きこえ支援情報館

No.9

発行/2021年10月1日 神奈川県聴覚障害者福祉センター補聴相談室 文責 大本純子

第6回コミュニケーション講座

9月4日(土)に開催しました。

テーマは、手話(入門)。講師は、神奈川県中途失聴・難聴者協会の会員古川実利氏、アシスタントには同協会の津田真美子氏にお願いしました。

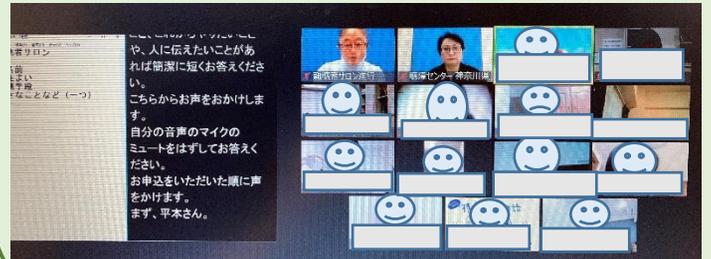
アイスブレイクとして、心理テストがありました。惚れっぽさや自己愛の度合いなどが分かるテストで笑いも出て、緊張がほぐれました。

今回は、手話の最後の回なので、たくさんの単語が出てきました。家族、感情、場所を表す単語などです。「楽しい」という手話は、韓国の手話でも国際手話でも同じように表すそうです。「楽しい」ことを表すのは世界共通なのですね。また、表情も大事だということです。最後に講師からは、手話の勉強をぜひ続けてほしい。間が空いてしまうと、忘れてしまうから、ということでした。どうぞ、諦めずに繰り返しトライしてみてください。



第2回難聴者サロン開催しました

9月26日(日)にオンラインで行いました。今回は、初参加の方、社会経験豊富な方、これから就職活動をする大学生と幅広くご参加いただきました。経験ある方から若い方へのアドバイスがありました。職場で自分のきこえのことをあまり伝えないままだったこと、もっときちんと伝えればよかったと話してくださった方もいました。家族の中で理解されないとの話に、共感されていた方もいました。ここで話したことで明日への活力になれば幸いです。



補聴相談室から

補聴器の機能

～雑音抑制機能について

補聴器は、雑音が苦手です。聞きたい音声の他に雑音や聞きたくない音声があると聞きとりにくいということがよくあります。雑音の種類によって複雑な抑制処理を行います。定常雑音処理、衝撃音処理、必要音声処理、風切り音処理、補聴器動作音処理、ハウリング抑制処理などです。このような機能はありますが、聞きたくない音を消して、聞きたい音声だけを聞けるようになるわけではありません。できるだけ、雑音がない環境をつくることも大事です。

この10月から字幕付きCMが全国で放送

2003年の地上デジタル放送の開始に伴い、テレビ番組が字幕付きとなり、ドラマのセリフなどが表示されてきました。一方、CMの字幕は、一部試験的に実施されてきましたが、広告主の認知度の低さなどもあって1%程度にとどまっていた。それが、CMIに字幕を付けて放送する設備が進み、日本民間放送連盟などが普及を本格化させます。聴覚障害者や耳がきこえにくくなった高齢者など字幕が必要な人は全国に約1700万人いるとみられ、利便性の向上が期待されます。

当センターの事業についてのお問い合わせは
電話(0466)27-1911/FAX(0466)27-1225
メール soudan@kanagawa-wad.jp 担当 大本